

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム新川
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市新川町5385番地1
記入者名 (管理者)	川原 絵美
記入日	平成 20年 8 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域の中で・笑顔で満足～あきらめない～」を、ホーム理念とし、利用者様と、関わる中では、「出来ること、出来る可能性」を意識してサポートする中、利用者様も「出来ること」を感じた生活が増えていく。また、住み慣れ地域の中で、自然と笑顔で暮らし、満足した生活を送ることを目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	学習会やミーティングで、理念に沿った学習を行っている。また、新しく入職したスタッフに理念について説明し、利用者様が安心して暮らすために、サポート役として関わることを伝えている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットや運営推進会議の資料などに理念を載せている。また、入所時は理念について説明をさせて頂き、誰でも覚えやすい言葉で表現している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者様と、ホーム周辺を散歩する機会をつくっている。その時に、近所の方に挨拶をすることで、顔なじみとなり、近所の方から声をかけて頂くこともある。時々、ホームの見学に来られたり、近所の方が子供さんを連れて様子を見に来られたりすることもあった。		「施設」といったイメージが強いのか、遠慮をされている様子もある。敬老会など行事を通して近所の方も誘い、ホームの生活を知って頂く事で、一般の家庭と同じ感覚で気軽に立ち寄っていただけるように工夫する。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会できていない。また、地域の特性について積極的にかかわりが持てなかった。		町内会に加入し、地域の特性や、行事など積極的に参加をしていきたい。そのなかで、当ホームが地域に貢献できることを検討していこうと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を開催する中で、グループホームの事や、介護保険に関する事を、知らなかった方もいる。会議で、グループホーム実施している取り組みや、利用者様の活動内容を、分かりやすい内容で伝えるように工夫している。		地域の行事等へ参加することで、当ホームが地域へ貢献できることを検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで、外部評価の目的等をスタッフへ周知している。また、評価ガイドブックも、スタッフにも内容を理解する為に目を通すように伝えてある。また、ミーティングで「今月の検討事項」として、評価ガイドの項目からテーマを決め、目標にすることもある。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。ホームの活動報告、利用者様の状況等を報告させていただき、メンバーから意見等頂く中でホームのサービスに取理入れたりしている。		メンバーから、アイデアや意見など多く出していただき、ホームのサービス向上に繋がる取り組み、会議にしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営等に関し、市担当者へ相談をすることも多い。また、不明なことは県に確認をしていただいたりと、協力していただくので助けられていることも多い。		今後も、事業所内だけでは判断が難しいこと、疑問に感じていることなど担当者を通し相談をしたり、ホームで出来ることは積極的に受け入れて生きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については、研修等で学ぶ機会も多くあった。ホームを利用している方で、入所前より、地域福祉権利擁護事業の活用された方が良いと思われたケースもあったので、初めて連絡、調整、契約等に立ち会うこともあった。		制度を上手く活用し、利用者様が安心できる暮らしをサポートしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修でも虐待防止に関する内容の研修があり、参加している。また、ホームでは身体拘束廃止委員会と一緒に虐待防止についても常に注意し、防止が出来るように意識している。また、4月に他県で起きた虐待の内容の記事を連絡表へ綴り、各スタッフも周知したりしている。		定期的に虐待防止法や関連する内容等について考えたりする機会を維持していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、重要事項や、利用に関する説明をする時は、ご家族にも時間を作ってもらい説明をさせて頂いている。また、ホームで生活する中で、起こりやすい事故や、リスクについても説明し、理解して頂いている。</p>		<p>今後も、ご家族が納得して安心出来るように、十分な説明が出来るように心がけたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様から、生活上で困ることや、スタッフの対応について不満に感じていることが無いが日常の会話の中で伺うようにしている。</p>		<p>利用者様が、自由に意見や苦情等を伝えられる関係作り、また、スタッフが、その意見を元にサービスが向上できるような気持ちで受け取る関わりを築いていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「新川たより」や「今月の様子」の便りを作り、ご家族へ送付させてもらっている。又、受診や、個人の消耗品等を購入するために預かっているお金について、支払い内容等を記載した金銭出納帳のコピーも一緒に送付、確認していただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族がホームに来られた時や、計画書の説明をさせて頂くとき、ご意見や、困ることなどないか聴く様にしている。また、玄関には面会簿の隣に「ご意見箱」を設置している。</p>		<p>ご家族の方から、気を遣われることが無く自由に意見を言っていただけ関係作りや、アンケート等でご家族の意見が反映できるように取り組みたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、ミーティングでスタッフの意見を出してもらっている。また、会以外でも、スタッフの意見を聞いたりしている。</p>		<p>スタッフは「こんなことを伝えてもいいのか？」と、気を遣うこともあると思う。積極的な意見や方法が出し合える仲間、チーム作りを意識していきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様や、ご家族の要望に対し、その時の状況で、できる限り必要な支援、対応に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者が少ないため、馴染みのスタッフが関わりを持つことができています。又、利用者様の中にはスタッフの名前、顔を覚えている方も多い。新しく加わったスタッフを利用者様に紹介し、興味を持っていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を迎え、法人内でも、合同の研修会を年4回計画し実施している。また、ホーム内でも月1回学習会を開き、計画を立ててスタッフと一緒に学ぶ機会を維持している。外部の研修会にはスタッフが交互に参加できるようにシフトも調整している。		学習する機会を維持することで、各スタッフの、モチベーションもアップできるように取り組んでいきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム協議会に加入し、研修など参加している。その中で、他事業所の管理者や計画作成担当者、スタッフともお互いのホームの様子や、情報交換を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ケアする中で、困っていること、心配なことをミーティングや、申し送り等で意見を交換している。休憩場所を特に設けていないが、スタッフ間で冗談を言い合うなど、明るい雰囲気づくりをしている。		働きやすい環境については常に検討したい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各スタッフのスキルアップがしやすいように、勤務調整をするなど支援できる体制を作っている。また、参加したい研修等があれば積極的に参加してもらっている。勤務に関しては、労働基準法に基づき、スタッフの労働条件を整え、又、就業規則もあり、守っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談を行い、ご家族や利用者様から、不安になる事、生活歴など話して頂き、心身の状態や、本人の思いに向き合うように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面談を行う中で、ご家族が心配していること、今後どのように過ごして頂きたいかなど、話していただく。話や状況に応じて、当ホームの生活内容や、ご本人様への対応方法等をお伝えするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネージャーや、施設等のケースワーカー等からの紹介が多く、当ホームへ入所する前提で来られた方がほとんどであった。他のサービス利用で改善ができることがあれば、提案したり、相談を受けるようにしていきたい。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームへの見学が可能であれば、なるべく利用する前より通ってきて頂き、ご本人様も生活に対し、イメージしやすいのではないかと考えている。現在、利用していただいている方は、ホームに来て、見学等をすることが出来なかつたので、ご自宅やご本人が生活している場所へ出かけ、面談をさせて頂いた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段からお互いに協働することを意識した生活が出来るように工夫している。例えば、スタッフが洗濯物を取り込んでくると、利用者様から「あなたは忙しいから、私に任せて休みなさい。」など、声をかけていただくことも多く、又か戦時中の言葉の意味を教えて頂いたり、学ぶことも多くある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から、利用者様のこれまでの生活して来られた背景や暮らし、得意だった事、習慣にしていた事など伺い、現在の生活に取り入れている事も多い。又、数年ぶりにご家族へ手紙を送ることが出来た時、そのご家族と一緒に喜ぶ場面もあった。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームの行事に参加して頂いたり、又来訪された時は、スタッフより利用者様の生き生きとした様子や、ホームで日課としてされている事など伝えたり、ゆっくり話が出来るようにセッティングしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の要望を伺い、お墓参りや、昔から馴染みのある知人宅や、商店に出かける機会を維持している。生活する場所が変わっても、これまで暮らしてきた地域との関わりが途切れることが無いように支援させて頂いている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が上手く関わる事が出来るように、スタッフが調整役となっている。又、利用者様同士で助け合ったり、労う場面もある。入院をした利用者様を気にかけて、退院してこられた時は、お互いに「良かったね」と涙をこぼし喜び合うこともあった。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方はいないが、当ホームの利用が終了しても、お互いに行き来できる関係を持ちたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いを表現できるよう又、引き出すことが出来るように努めている。現実的に支援が難しいことでも、できる限り利用者様の希望、思いが実現できるような方法など利用者様も含めて話し合うように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に利用者様の自宅へ訪問したり、ご家族や関係者から聞き取るようにしている。利用後も、利用者様から会話を通し把握するように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の過ごし方など、把握するようにしている。その中で、利用者様の出来ることは続けられるように、可能性があることについては、一部でも関わることが出来るようにサポートし、方法などスタッフ間で統一できるように、伝達することを意識している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様や、ご家族の希望を第一に考え、計画作成担当者は、スタッフと日々の様子など情報を交換している。又、利用者様、ご家族からも意見を伺い作成することに努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、三ヶ月ごとに見直し、変化が生じた時は、その都度利用者様、ご家族、スタッフの意見を交換して作成するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、利用者様の様子や、言動、スタッフが関わりの中で気づいたこと、その背景や工夫など記入する方法として「SOAP」の記号を使い、分けて記入している。記録を通し、利用者様の变化など振り替える機会とし、スタッフも利用者様の变化に気づく、考える、工夫する力を伸ばすようにしていきたい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者様にとって負担となる長期入院の回避、早期退院などの支援体制を整えられるように、主治医やご家族と話し合う中で、生活へのダメージを最小限に留めることが出来るように工夫している。又、重度化した場合の指針があり、利用者様、ご家族の望む生活へ柔軟な対応をしたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や、地区の消防分団等の方が運営推進会議のメンバーで、意見交換が出来る機会を定期的に設けている。又、近隣のボランティアの方が来訪し、踊りなど披露して頂く事もある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様の希望に応じ、訪問理美容サービスを利用している。今後も必要に応じ、他のサービスも活用したい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議へ参加して頂く中で、情報交換をしている。		運営推進会議以外でも協働できる事を検討し、積極的に関わるように努めたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や、ご家族の希望するかかりつけ医へ受診援助を当ホーム看護師より行っている。又、入所後も訪問診療を受けていただいているケースもある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、脳神経外科へ受診し、入所後の状態変化など相談するケースもあった。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームへ看護師を配置し、日常の健康管理や、医療面での対応をし、利用者様個人ごとのかかりつけ医との連携を図るように努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による環境の変化や、精神的な負担を最小限に出来るように、入院となっても主治医と相談しながら、ホーム内で対応可能な段階で、早期に退院が出来るようにしている。又、利用者様のお見舞いの中で、様子を伺ったり、ご家族から様子をお伺いなど情報交換を積極的に図っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を設けており、入所時にその内容を説明している。また、利用者様、ご家族の意思に沿った形で対応していきたい。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所内で、対応が出来る事や反対に困難な事もあるので、利用者様、ご家族や主治医など関係者と十分に話し合い、その中で無理が生じず、利用者様、ご家族が安心できる体制を整えたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所する際に、情報交換、連絡を密に取り、ご利用者様に合った生活、介護支援又、できる限り自立に向けた支援が出来るように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者様を中心とした生活、介護を基本に、プライバシーや生活してきた背景、考え方などを大事に対応が出来るように心がけている。又、スタッフ間でも、学習会やミーティングで意識する機会としている。個人情報の取り扱いについては、入職時の雇用契約上でも取り決めをしている。</p>	<p>スタッフ個人がセルフチェックできるようなシートを作り、定期的に見直すことで意識の向上を図るようにしたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者様の個々に応じた言葉のかけ方、表情、言動など観察する中で、利用者様の希望や、思いを導き出せるように支援することに努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの利用者様に合わせて、時間を区切らず、個別性のある支援を行っている。又、買い物や散歩など希望や思いに沿って対応している。</p>	<p>掃除、調理、洗濯、入浴などスタッフの業務として集中する時間帯がある。その中で、スタッフの業務中心の生活、ペースにならないように全体で振り返る機会を維持する必要がある。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ホームへ理美容師さんが来訪し、利用者様の希望を伺いながらカットして頂いたり、商店へ買い物に出かける事もある。着替える服も利用者様と一緒に選ぶように心がけている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様に食べたい物を尋ねながら、メニューを決めたりしている。又、広告に入っている仕出しを見て「ここでお昼にとってくれたらいいのに」といわれる利用者様の意見を取り入れることも多い。自ら食事の後の食器を片付ける方や、盛り付けを手伝っていただく事で、準備や片付けなど一緒に関わるように意識している。</p>	<p>ホームの食材を一緒に買いに出かける機会もある。誘うと一緒に行ってくださる方もいるので、買い物に出かける機会を増やしたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者様個人が好むおやつ、飲み物を用意したり、一人ひとりの状態に合わせて支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>時間や習慣を把握するため、排泄チェック表へ記入、排泄チェック表を活用して、タイミングを図るようにしている。できる限り、トイレで排泄することを当たり前とした排泄援助を実施している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は決めず、毎日入浴準備をしているが、入浴時間は全体の状況を考慮したので、午後からと決めている。一人ひとりの希望に合わせて、気持ちよく、安全に入浴が出来るように支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの習慣に合わせて、休息する時間を取り入れている。夜間の睡眠状態も把握し、必要があれば日中の活動を促す工夫も行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の準備、盛り付け、食器の片付けなど、個人ごとに能力を発揮し続けられるように支援している。又、暮らしていた地域へ出かけ、知人との関係を維持したり、散歩に出かける機会を維持する中で、ホームの中だけの生活とならず、気晴らしが出来るように支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様の中には、小額のお金を手元で管理している方もいる。時々、買い物に出かけた時は、自分で商品を選び支払いをされる事もある。スタッフは支払いの時、一緒に釣銭の確認をするようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホーム周辺を散歩に出かけたり、ホームの庭で過ごす機会を設けている。また、お墓参りや、買い物など外出する機会を維持している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ご家族と一緒に出かけたり、ホームの行事で花見などに出かける機会を維持している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の中には遠方で生活されている方もいるが、定期的にはがきや手紙が届いたり、電話をかけて頂き、話をされることも多い。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や、知人の方がいつでも気軽に来訪していただけるようにしている。来訪された時は、スタッフも笑顔で対応することを心がけ、周囲に気兼ねすることなく気持ちよく過ごしていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、ミーティングの時、身体拘束に繋がるようなケースの有無など確認をしている。又、身体的な拘束以外にも、言葉や安易に使用されやすい薬の拘束に関しても事例を挙げ、生活の質を妨げる行為であることを認識している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけた生活管理をすることの弊害について、身体拘束による弊害と同等に捕らえ、ミーティングや学習会で周知している。ホーム内で鍵をかけて管理する生活は無い。		外に出て行こうとする方や安全面だけを重視しやすいケースが今後あることも考慮し、鍵や物などで管理することが無いように、利用者様の生活の質が損なわれないサービスに努めていく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの利用者様の状態から予測されるリスクを把握し、見守るようにしている。夜間も、利用者様の対応に備え、近くのソファーやテーブルで過ごしている。又、2時間ごとに利用者様の状態確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や、洗剤、薬など保管する場所を決め、使用の都度決められた場所に直すようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの予測されるリスクを把握し、プランの中にも盛り込んだり、状態に応じた介助等を実施している。又、「介護手順マニュアル」があり、介助中の事故を防止するように努めている。インシデントレポートを作成し、事故に繋がるケースが起きた時は全体で今後の方法など検討している。また、定期的に検討し実践している内容を確認している。		インシデントの中で、検討した方法など時間の経過と共に忘れてしまうこともある。定期的に確認をすることを維持していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時の対応、連絡についてマニュアルがあるが、発生した時、対応がスムーズに出来るか不安はある。		期間を決め、事故発生など連絡や対応を訓練する。10月の学習会で緊急時の対応を訓練する計画がある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	H20年3月に地区消防組合の指導の下、防火訓練を実施。訓練の内容など、運営推進会議で報告させて頂いた。訓練の前には、近隣の方に訓練内容や日時など知らせた。		定期的にホーム内で訓練することで、火災などの災害発生時に冷静に対応が出来るように努めたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に利用者様の状態から予測されるリスク等、ご家族に説明し、理解して頂いている。利用者様の状態の変化に伴い、リスクも変わることもあるため、その都度ご家族に相談したり、伝えるようにする。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行い状態の確認をしている。疾患に応じ、午後からも確認することもある。変化がある時は、申し送りの中で、伝達し、スタッフ全員が把握できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬剤管理表」のファイルが個人ごとに分けてあり、スタッフが常時確認できるようにしている。服薬援助は個々の状況に合わせて、支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表に有無を記入し、便秘が続いている利用者様が居ないか確認している。自然排便を促すために、食材や水分摂取を促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1月の研修で、安楽歯科の先生と衛生士さんを招き、口腔ケアについて研修を行った。口腔ケアで知ったこと、ホームで出来る口腔ケアを意識することで、健康な口の働きを維持し、食べ物をおいしく口から取り入れられるように利用者様も一緒に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1600Kcalを目安としている。1日のカロリーを計算し、調理にも工夫している。食事が進まない利用者様が居る時、高カロリーのドリンクを捕食としてつけることで、栄養のバランスを保ち、食欲が戻った方もいる。		栄養士の方へ全体のバランスを確認してもらい、栄養のバランスを保つようにしたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のもアニュアルを設置し、委員会を中心に、毎月予防に向けた注意事項を伝達している。また、平常時の衛生管理も含め取り決めや、チェックを実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生に関するマニュアルを設置。平常時の管理や、食材ごとにまな板、包丁を使い分け、使用後は消毒など実施している。食材を購入したときは、メモ紙に賞味期限を記入し、冷蔵庫のドアに貼り付けている。また、各項目に沿ってチェックをする中で、衛生面にも意識できるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにプランターに季節の草花を植え、明るい雰囲気作りを意識している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた絵など飾り付けをしている。利用者様と一緒に作品を作り、飾る位置も相談しながら装飾している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの利用者様がゆっくり寛ぐ場所がある、また、利用者様同でテレビを見て楽しまれたり、楽しく話をされることも多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は、利用者様やご家族と相談をしてもらい、使い慣れたものを持参し、利用者様が安心できる空間をつくらせている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気し、空気の入替えに心がけている。また、1日4回時間を決めて、温度、湿度の確認をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の位置を、できる限り低く設置し、車椅子利用の方が不自由に感じないよう工夫した。個人の身体的な差もあるので、洗面器など使用し工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、トイレが分かるように文字や記号で表示し、混乱や失敗を少なくする工夫を行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの庭に出たり、テラスで外を眺めたりと、ゆっくり楽しむ場所として活用できている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「いつまでもおいしく食事を食べる」ことを目標に、口腔ケアを実施することで、利用者様も習慣となってきた事も多く、今後も個別にケアが出来るように歯科医に相談や協力を受けて実施していく。この他に、生活の動作で下肢の筋力を維持するための工夫や、簡単なリハビリをすることで、身体機能の低下を予防できるように努めている。その中で、動作や行為などが出来るようになっていたり、家事など一部分を任せられる事で、利用者様も自然と笑顔が多くなっている。排泄面についても「おむつにしたいくない。」という利用者様の希望に沿って、トイレで排泄することを目標に取り組んでいる。起立などの動作や、手順が困難な状況があっても、スタッフ間で知恵を出し合い「トイレで排泄」する方法が見つかる事も多い。また、計算や色塗り、文字を書くことなど毎日一緒にすることで、計算が速くなったり表情が豊かになる利用者様も多い。当ホームの理念である「住みなれた地域の中で、笑顔で満足～あきらめない～」は、私たちスタッフが諦めずに「出来ること」を生活に活かしサポートすることで、利用者様が自信を持ち、喜びを感じるようになると、自然と笑顔になり満足した生活となる。私たちスタッフも、その利用者様の生き生きとした姿を見ることで、関わりを持つことができたという満足感につながるので、今後も利用者様の「笑顔と満足」した生活をサポートしていきたいと考える。